

あれから Vol.14 マラソン女王の病

マラソン MARATHON

SEIKO

2:24.19



名古屋国際女子マラソンで優勝し、鮮やかなマラソンデビューを果たした原さん。「新星誕生」と話題になった(2005年3月13日)



ランニング前にストレッチをする原さん。「昔と違って、気持ちいいところで終わらせる。だから、走るのが余計に楽しい」(5月15日、千葉市内で) 菅野靖撮影

減量苦…つい、伸びた手

原 裕美子さん(39)

(1面の続き)

幼い頃から、走るのは得意だった。原裕美子さん(39)は、小学6年の時、地元中学の陸上部指導者の目に留まり、中学生に交じって練習を積んだ。実はこの頃、さしたる理由が思い当たらないまま、学校では仲間はずれにされていた。憂鬱な日々を振り払うように走り込んだ。すると、校内マラソンではダントツの優勝。「原さん、すごい」。周囲の目が変わった。

「もっと褒められたい。もっと速く走りたい」。中高とも陸上にのめり込み、高校卒業後は、実業団チームの「京セラ」に入部した。毎朝5時に起床し、13キロのジョギングをこなす。日中は午後2時頃まで工場で働き、その後は午後6時まで走り続けた。

練習の苦しさは、中高時代の比ではなかった。だが、負荷をかけられた自分は、確実に強くなっていた。

初のマラソンレースとなる2005年3月の名古屋国際女子マラソンで、並み居る強豪を抑えて2時間24分19秒の



世界選手権ヘルシンキ大会で、当時の世界記録保持者ポーラ・ラドクリフ選手(英=左)に必死についていく原さん(右)(2005年8月14日)

好記録で優勝。同年8月の世界選手権ヘルシンキ大会では、日本人最高位の6位に入った。

「これまで目立った活躍のなかった自分が、世界の舞台で走れるなんて」。喜びをかみしめた。

07年の大阪国際女子マラソンも制し、日本のトップランナーとして、「原裕美子」の名は知れ渡った。

その栄光は、過酷な練習とある「秘密」に裏打ちされていた。心と体をコントロールして、強く、速く走り続けるための秘密――。

「とにかくつらかったのが、食事制限でした」。入社直後は身長1.63、体重49キロ。実業団ではそこから5キロの減量を命じられた。「お前だけ体重が落ちないのはなぜだ」。毎日のように叱咤された。

当時、父の芳男さん(70)は、たまに帰省した娘が好物の

鶏のから揚げを食べていた姿に「本当に身にたまりやう」といさよ

追い詰め嫌いになりが編み出し

食べてもその減量法が限界まで輪(08年)まで全日本事

人生は、

今年3月、原さんは自伝「私が欲しかったもの」(双葉社)＝写真＝を出版した。「人生もマラソンと同じように、つらいことの方が



奥山裁判官から判決を言い渡された後、林弁護士(右)とともに記者会見に臨む原さん(2018年12月3日、群馬県太田市で)

で優勝。同年8月の世界権ヘルシンキ大会で日本人最高位の6位に入った。

これまで目立った活躍のなかった自分が、世界の舞台が編み出したのが、おなかいっぱい食べて

「原裕美子」の名は知し、日本のランナー

の栄光は、過酷な練習と「秘密」に裏打ちされて心と体をコントロール強く、速く走り続けるの秘密。

「かくつらかったのが、制限された」

在直後は身長1.63、体重の減量を命じられた。おのけ体重が落ちないのはな

時、父の芳男さん(70)は、帰省した娘が好物の



世界選手権ヘルシンキ大会で、当時の世界記録保持者ポーラ・ラドクリフ選手(英=左)に必死についていく原さん(右)(2005年8月14日)



食べ吐きで胃酸にさらされ、ぼろぼろになった原さんの歯。差し歯を除いた「自分の歯」は下の前歯5本=本人提供

鶏のから揚げの衣を外して食べていた姿を忘れられない。「本当に身を削って、走るといってさげている」

追いつめられ、走ることが嫌いになりかけた時、原さんが編み出したのが、おなかいっぱい食べて

「食べ吐き」だ。嘔吐には何の苦痛も伴わない。「いくら食べても太らない」。絶好の減量法だと思えた。

全日本実業団対抗女子駅伝に向けた合宿中、他の選手が冷蔵庫に入れていたヨーグルトを、原さんは勝手に食べてしまった。「どうしても食べ

人生は、さらに良くない方

今年3月、原さんは自伝「私が欲しかったもの」(双葉社)を出版した。「人よ方も止まらぬ、つらいことばかりで休めばいい」を込めてメッセージを送ったという。

私が欲しかったもの

原裕美子

「欲しかったもの」は、原さんが3000円、毎月1000円、10冊のシリーズで、手に入れたもの。その中で「私が欲しかったもの」は、原さんが3000円、毎月1000円、10冊のシリーズで、手に入れたもの。

◆原裕美子さんのあゆみ

時期	事案	年齢
1982年1月	栃木県足利市で生まれる	0歳
1994年4月~2000年3月	中学・高校で陸上部に所属	12~18歳
00年4月	京セラ入社。その後、体重管理などのストレスで「食べ吐き」が始まる	18歳
05年3月	名古屋国際女子マラソン優勝	23歳
8月	世界選手権ヘルシンキ大会で日本人最高位の6位	23歳
07年1月	大阪国際女子マラソン優勝	25歳
冬	合宿先でのヨーグルトの盗難騒ぎで、全日本実業団対抗女子駅伝欠場	25歳
12年夏	万引きで初めて逮捕される	30歳
13~14年	元コーチとの金銭トラブル	31~32歳
17年春	婚約していた男性と破局	
8月	万引きで6回目の逮捕。全国ニュースに	
9月	下総精神医療センターに入院	35歳
11月	懲役1年、執行猶予3年の有罪判決	
18年2月	万引きで7回目の逮捕(執行猶予中)	
12月	懲役1年、保護観察付き執行猶予4年の有罪判決	36歳
	伊豆大島マラソンや、昭和記念公園でのマラソン大会にゲストランナーとして参加	
20年2月	千葉市内の物流倉庫で働くかわら、居酒屋「芝浜」でも働き始める	38歳

もらった「塀の外」の人生 必ず立ち直る

に転がっていく。北京五輪出場を逃した後、別の実業団に身を置くなどして再起を図ったが、ケガに悩まされ、結果を出し続けることができない。元コーチにお金をだまし取られ、結婚を約束した男性とは、式まで挙げた後に破局した。

「誰にも必要とされていない」。孤独が募り、ストレスを抱えるたび、食べ吐きの欲求が膨らんだ。おなかいっぱい食べると、その間は、嫌なことを忘れられた。

大量の食べ物を得るため、原さんはいつしか「万引き」に手を染める。最初に逮捕されたのは、ヨーグルトの盗難騒ぎから4年余りが過ぎた12年夏。心身をコントロールする手段だったはずの食べ吐きは、次第に制御不能となった。嘔吐の際の胃液で歯が溶け、差し歯を除いた「自分の歯」は、下の前歯5本だけになっていた。

「あなたの病名は『摂食障害』と『窃盗症』です。しっかりと治療すれば、必ず治りますよ」

17年秋、下総精神医療センター(千葉市)の平井慎二医師(62)から言われた原さんは驚いた。窃盗症(クレプトマニア)とは、衝動的に窃盗を繰り返す精神疾患のこと。

「え? 私は病気の何?」

この直前、万引きでの6回目の逮捕が、大きく報道された。

判決を言い渡した奥山雅哉裁判官は、驚いたことに、自ら

懲役1年。前橋地裁太田支部で判決の冒頭の一言を聞いた瞬間、原さんは頭が真っ白になった。

「ついに実刑か」。そう思い込んでうなだれていたと、林大悟弁護士44が「保護観察付きの執行猶予ですよ」と教えてくれた。

判決から4日後。東京・伊豆大島の市民マラソンのゲストに招かれていた原さんは、前日の講習会で自らの事件と病気を明かし、頭を下げた。参加者から拍手が起きた。その姿を見ていた元陸上選手の小田隆維さん(44)は「ここから再スタートする気持ちがあったのか、もやもやしたまま走るのが嫌だったのか。葛藤しながら参加者と向き合っていたと思う。お、こいつ勇氣あるな、と感じました」。

今、原さんは千葉市内の物流倉庫で働くかわら、同市内の居酒屋「芝浜」でアルバイト

「あなただけに」

「食べ吐き」は、次第に制御不能となった。嘔吐の際の胃液で歯が溶け、差し歯を除いた「自分の歯」は、下の前歯5本だけになっていた。

「あなたの病名は『摂食障害』と『窃盗症』です。しっかりと治療すれば、必ず治りますよ」

17年秋、下総精神医療センター(千葉市)の平井慎二医師(62)から言われた原さんは驚いた。窃盗症(クレプトマニア)とは、衝動的に窃盗を繰り返す精神疾患のこと。

「え? 私は病気の何?」

この直前、万引きでの6回目の逮捕が、大きく報道された。

判決を言い渡した奥山雅哉裁判官は、驚いたことに、自ら

懲役1年。前橋地裁太田支部で判決の冒頭の一言を聞いた瞬間、原さんは頭が真っ白になった。

「ついに実刑か」。そう思い込んでうなだれていたと、林大悟弁護士44が「保護観察付きの執行猶予ですよ」と教えてくれた。

判決を言い渡した奥山雅哉裁判官は、驚いたことに、自ら

懲役1年。前橋地裁太田支部で判決の冒頭の一言を聞いた瞬間、原さんは頭が真っ白になった。

「ついに実刑か」。そう思い込んでうなだれていたと、林大悟弁護士44が「保護観察付きの執行猶予ですよ」と教えてくれた。

判決を言い渡した奥山雅哉裁判官は、驚いたことに、自ら

懲役1年。前橋地裁太田支部で判決の冒頭の一言を聞いた瞬間、原さんは頭が真っ白になった。

「ついに実刑か」。そう思い込んでうなだれていたと、林大悟弁護士44が「保護観察付きの執行猶予ですよ」と教えてくれた。

判決を言い渡した奥山雅哉裁判官は、驚いたことに、自ら

懲役1年。前橋地裁太田支部で判決の冒頭の一言を聞いた瞬間、原さんは頭が真っ白になった。

「ついに実刑か」。そう思い込んでうなだれていたと、林大悟弁護士44が「保護観察付きの執行猶予ですよ」と教えてくれた。

判決を言い渡した奥山雅哉裁判官は、驚いたことに、自ら



杉本和真 記者

すぎもと・かずま 2015年入社。初任地の秋田支局で、警察や行政、医療問題を取材。20年9月から東京社会部に在籍し、6月から裁判担当。フルマラソンは高校時代に挑戦したが、記録は何とか3時間台。28歳。

奥山雅哉裁判官の説諭

あなたは法廷で、「同じ病、摂食障害で苦しんでいる人に、自分が変わっていく姿を見せることで勇気を与えたい」と言いましたよね? 私もあなたほどではないが、いち市民ランナーとしてマラソンで走ることがあります。あなたはマラソンの並外れた才能があり、努力をする才能も持ち合わせています。この病の領域でもその才能を生かしてほしい。

2018年12月3日前橋地裁太田支部での判決後 ※原裕美子「私が欲しかったもの」より

「あなただけに」

「食べ吐き」は、次第に制御不能となった。嘔吐の際の胃液で歯が溶け、差し歯を除いた「自分の歯」は、下の前歯5本だけになっていた。

「あなたの病名は『摂食障害』と『窃盗症』です。しっかりと治療すれば、必ず治りますよ」

17年秋、下総精神医療センター(千葉市)の平井慎二医師(62)から言われた原さんは驚いた。窃盗症(クレプトマニア)とは、衝動的に窃盗を繰り返す精神疾患のこと。

「え? 私は病気の何?」

この直前、万引きでの6回目の逮捕が、大きく報道された。

判決を言い渡した奥山雅哉裁判官は、驚いたことに、自ら

懲役1年。前橋地裁太田支部で判決の冒頭の一言を聞いた瞬間、原さんは頭が真っ白になった。

「ついに実刑か」。そう思い込んでうなだれていたと、林大悟弁護士44が「保護観察付きの執行猶予ですよ」と教えてくれた。

判決を言い渡した奥山雅哉裁判官は、驚いたことに、自ら

懲役1年。前橋地裁太田支部で判決の冒頭の一言を聞いた瞬間、原さんは頭が真っ白になった。

「ついに実刑か」。そう思い込んでうなだれていたと、林大悟弁護士44が「保護観察付きの執行猶予ですよ」と教えてくれた。

判決を言い渡した奥山雅哉裁判官は、驚いたことに、自ら

懲役1年。前橋地裁太田支部で判決の冒頭の一言を聞いた瞬間、原さんは頭が真っ白になった。

「ついに実刑か」。そう思い込んでうなだれていたと、林大悟弁護士44が「保護観察付きの執行猶予ですよ」と教えてくれた。

判決を言い渡した奥山雅哉裁判官は、驚いたことに、自ら

懲役1年。前橋地裁太田支部で判決の冒頭の一言を聞いた瞬間、原さんは頭が真っ白になった。

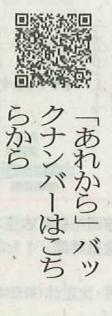
「ついに実刑か」。そう思い込んでうなだれていたと、林大悟弁護士44が「保護観察付きの執行猶予ですよ」と教えてくれた。

判決を言い渡した奥山雅哉裁判官は、驚いたことに、自ら

懲役1年。前橋地裁太田支部で判決の冒頭の一言を聞いた瞬間、原さんは頭が真っ白になった。

「ついに実刑か」。そう思い込んでうなだれていたと、林大悟弁護士44が「保護観察付きの執行猶予ですよ」と教えてくれた。

判決を言い渡した奥山雅哉裁判官は、驚いたことに、自ら



「あれから」バックナンバーはこちら